

**高砂市障害者計画・第6期高砂市障害福祉計画兼
第2期障害児福祉計画策定に向けたアンケート
調査結果報告書
【健常者へのアンケート】**

**令和2年10月
高砂市**

目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	結果の見方	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
1-1	居住地	2
1-2	障害者手帳所持状況	3
2	障がいのある人への理解・支援・活動	4
2-1	障がいのある人への理解に必要なこと	4
2-2	障がいのある人への支援	5
2-3	ボランティア活動・交流事業等への参加条件	7
3	障がい者の就労	8
3-1	障がいのある人の就労機会	8
3-2	障がいのある人と働く際に企業・事業所に希望すること	10
4	まちづくり	13
4-1	障がいのある人に関する経験	13
4-2	障がいのある人の暮らしやすさ	19

I 調査概要

1 調査の目的

「高砂市障害者計画」及び「第6期高砂市障害福祉計画兼第2期障害児福祉計画」の策定に向け、障がいのある人に対する健常者の考え方や、地域活動に対する参加状況等の実情を把握することを目的に調査を行いました。

2 調査の方法

種別	健常者へのアンケート
調査対象	兵庫県在住者(障害者手帳所持者を除く)
調査地域	兵庫県全域
調査方法	インターネット調査
調査期間	令和2年8月16日～8月31日
有効回答者数	611件

3 結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 問1及び問2の回答者数は654人ですが、問2の障害者手帳所持状況について「手帳を持っていない」と回答した611人のみを、問3以降の設問の回答対象者としているため、この611人を有効回答者数としています。

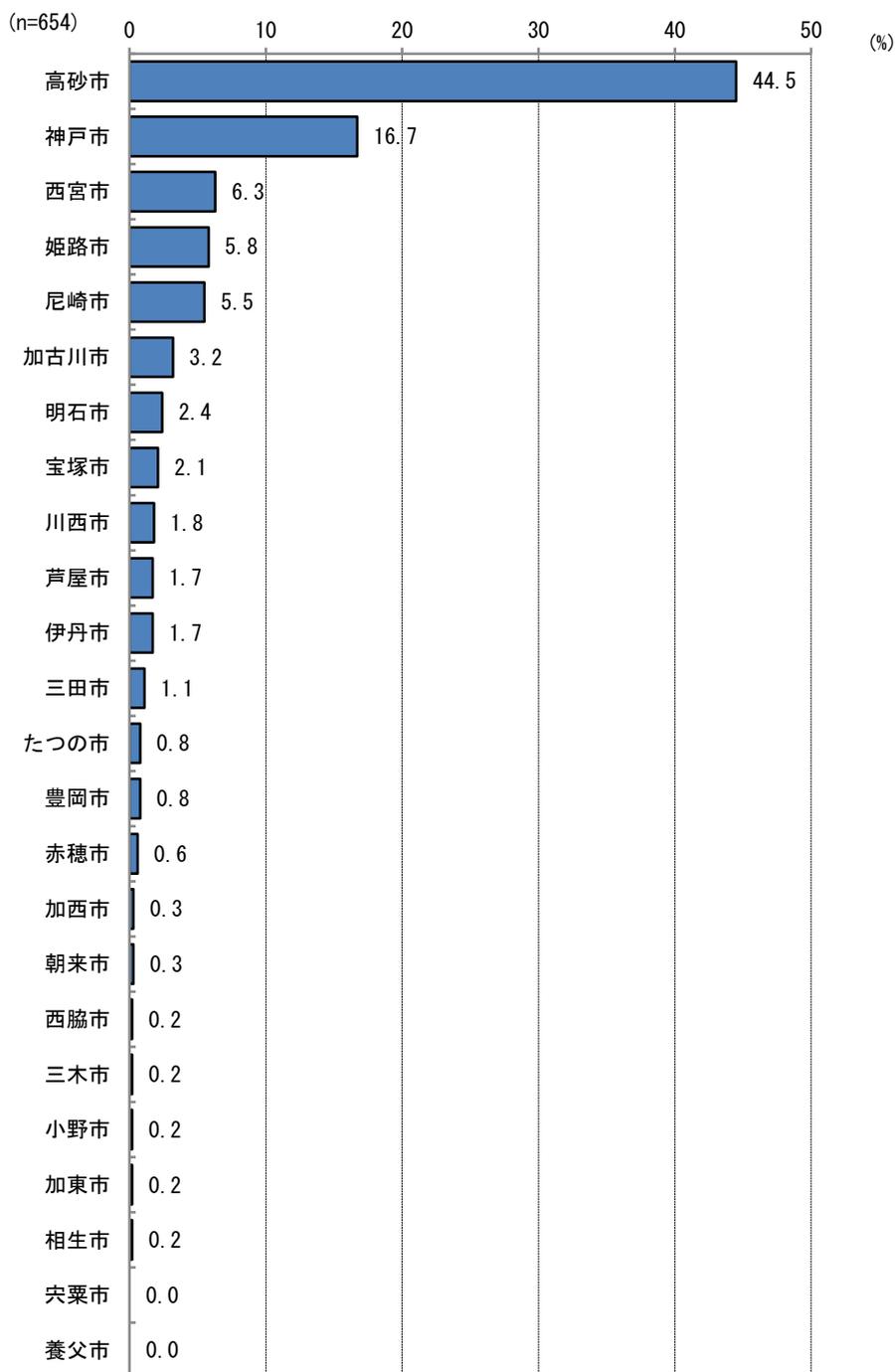
II 調査結果

1 回答者の属性

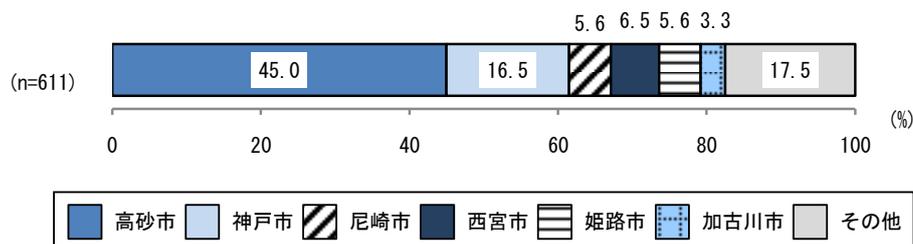
1-1 居住地

問1 あなたのお住まいを教えてください。

回答者の居住地は、「高砂市」が44.5%、「神戸市」が16.7%となっています。



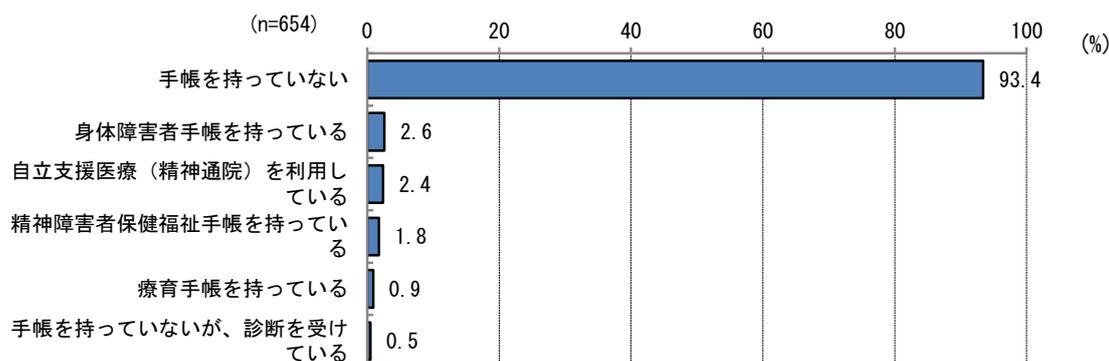
なお、上記のグラフのうち問2で「障害者手帳を持っていない」と回答した611人（有効回答者）の居住地は以下のとおりです。611人でみると、45%が高砂市です



1-2 障害者手帳所持状況

問2 あなたは障害者手帳を持っていますか。

回答者は「手帳を持っていない」人が93.4%となっています。

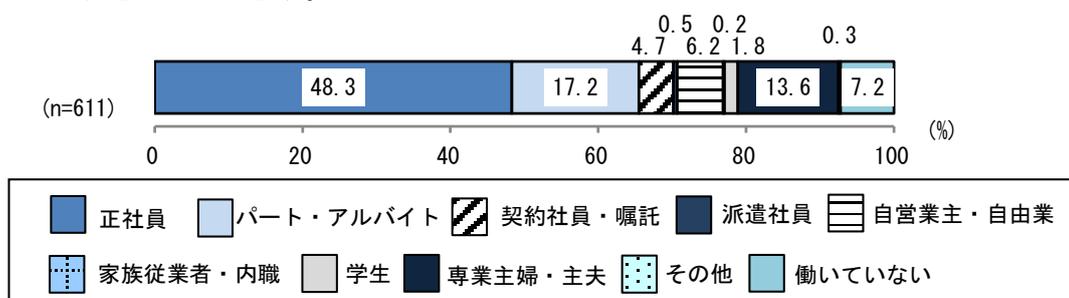


1-3 職業

これ以降は、問2で「手帳を持っていない」を選択された方のみ回答

問3 あなたは、現在、どのように働いていますか。

職業は、「正社員」が48.3%と最も高く、ついで「パート・アルバイト」が17.2%、「専業主婦・主夫」が13.6%となっています。

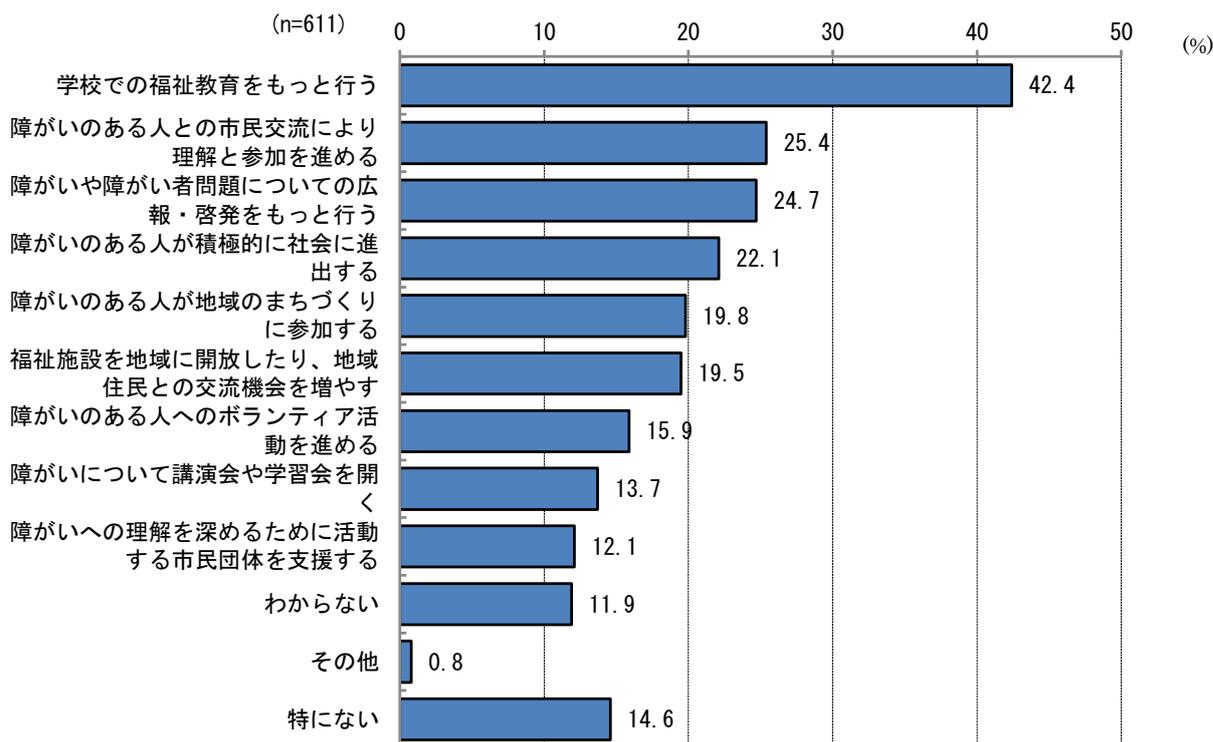


2 障がいのある人への理解・支援・活動

2-1 障がいのある人への理解に必要なこと

問4 地域に住む人々が、障がいのある人への理解を深めるためには、何が必要と思いますか。

障がいのある人への理解に必要なことは、「学校での福祉教育をもっと行う」が42.4%と最も高く、ついで「障がいのある人との市民交流により理解と参加を進める」が25.4%、「障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う」が24.7%となっています。



年齢別で見ると、『20歳代』と『30歳代』では、「学校での福祉教育をもっと行う」の回答率が他の年代に比べて高く、『40歳代』と『50歳代』では、「障がいのある人との市民交流により理解と参加を進める」の回答率が他の年齢に比べて高い傾向にあります。

【年齢別】

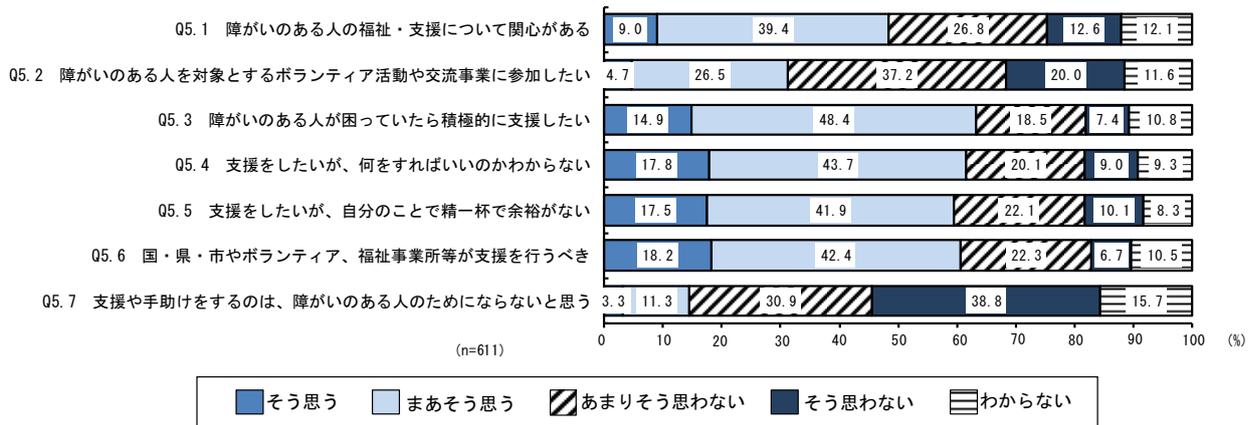
	調査数	学校での福祉教育をもっと行う	障がいのある人との市民交流により理解と参加を進める	障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う	障がいのある人が積極的に社会に出る	障がいのある人が地域のまちづくりに参加する	福祉施設を地域に開放したり、地域住民との交流機会を増やす	障がいのある人へのボランティア活動を進める	障がいについて講演会や学習会を開く	障がいへの理解を深めるために活動する市民団体を支援する	わからない	その他	特にない
全体	611	42.4	25.4	24.7	22.1	19.8	19.5	15.9	13.7	12.1	11.9	0.8	14.6
20歳代	121	45.5	19.8	26.4	22.3	13.2	16.5	18.2	16.5	14.0	11.6	3.3	14.0
30歳代	123	52.8	22.8	26.8	26.0	25.2	21.1	13.8	19.5	12.2	5.7	0.0	18.7
40歳代	122	36.1	31.1	17.2	18.9	16.4	20.5	15.6	9.0	8.2	14.8	0.0	17.2
50歳代	122	36.9	27.9	19.7	21.3	21.3	21.3	15.6	13.1	11.5	10.7	0.8	14.8
60歳以上	123	40.7	25.2	33.3	22.0	22.8	17.9	16.3	10.6	14.6	17.1	0.0	8.1

2-2 障がいのある人への支援

問5 あなたは障がいのある人への支援についてどう思いますか。

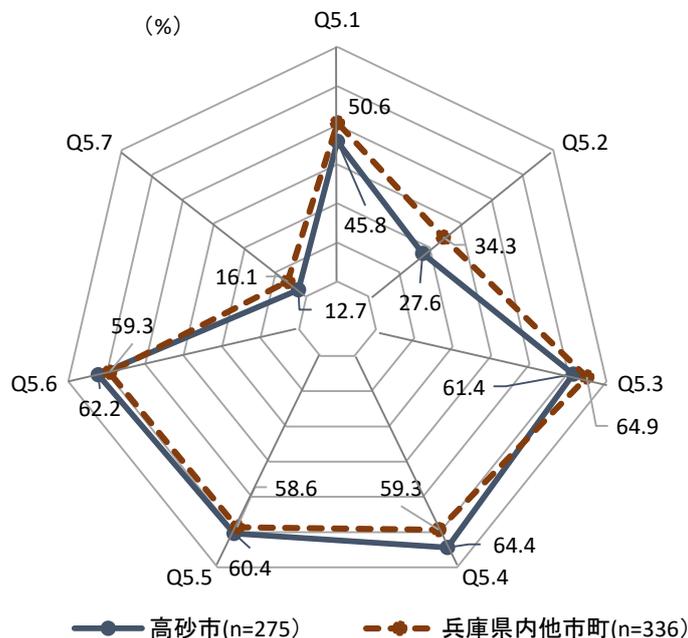
「障がいのある人が困っていたら積極的に支援したい」、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」、「支援をしたいが、自分のことで精いっぱい余裕がない」、「国・県・市やボランティア、福祉事業所等が支援を行うべき」の項目に対して、肯定的な意見（「そう思う」「まあそう思う」）が半数以上となっています。

「支援や手助けをするのは、障がいのある人のためにならないと思う」は否定的な意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」）が69.7%となっています。



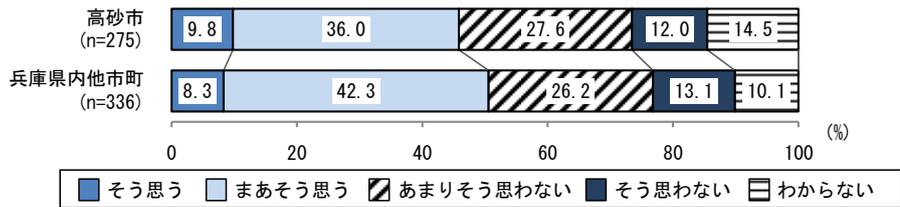
居住地別で見ると、肯定的な意見（「そう思う」「まあそう思う」）について、『高砂市』は『兵庫県内他市町』に比べて「障がいのある人を対象とするボランティア活動や交流事業に参加したい」（27.6%）が低く、「支援したいが、何をすればいいのかわからない」（64.4%）が高い傾向にあります。

【居住地別（肯定的な意見の合計）】

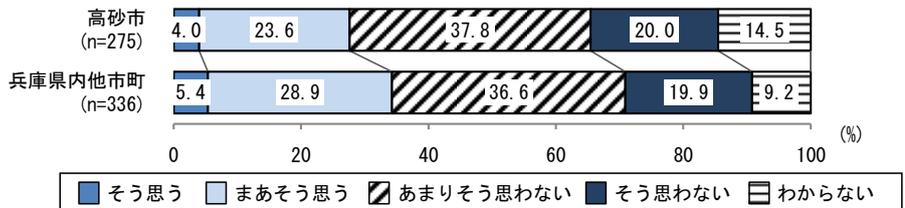


【居住地別】

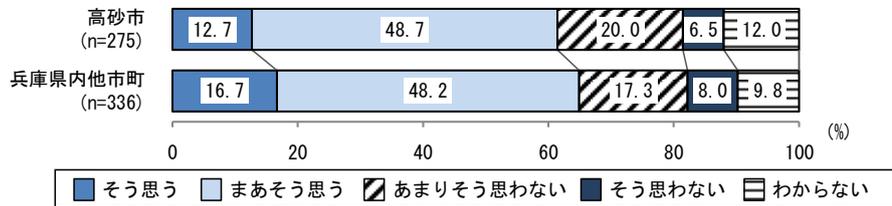
①障がいのある人の福祉・支援について関心がある



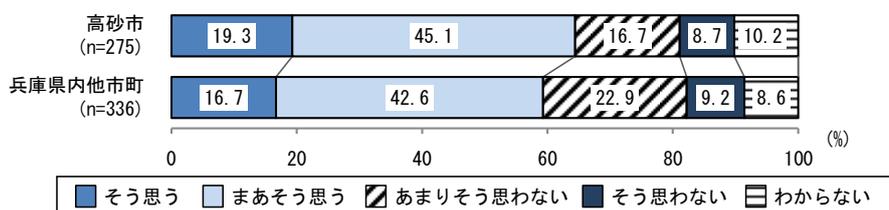
②障がいのある人を対象とするボランティア活動や交流事業に参加したい



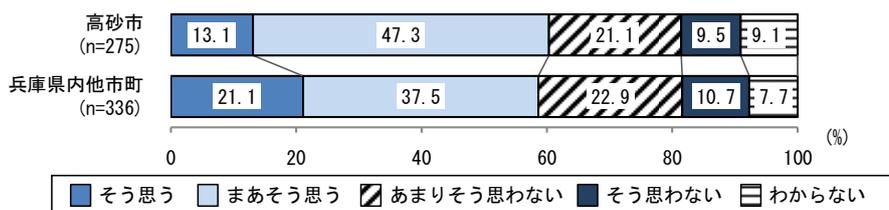
③障がいのある人が困っていたら積極的に支援したい



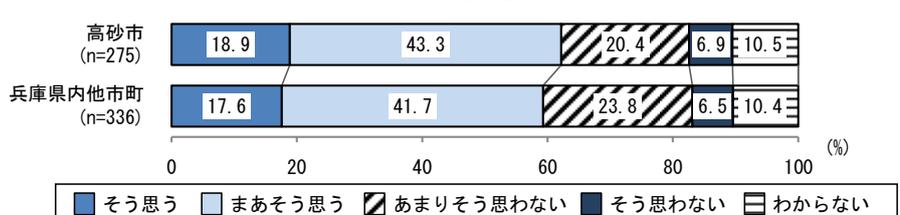
④支援をしたいが、何をすればいいのかわからない



⑤支援をしたいが、自分のことで精一杯で余裕がない



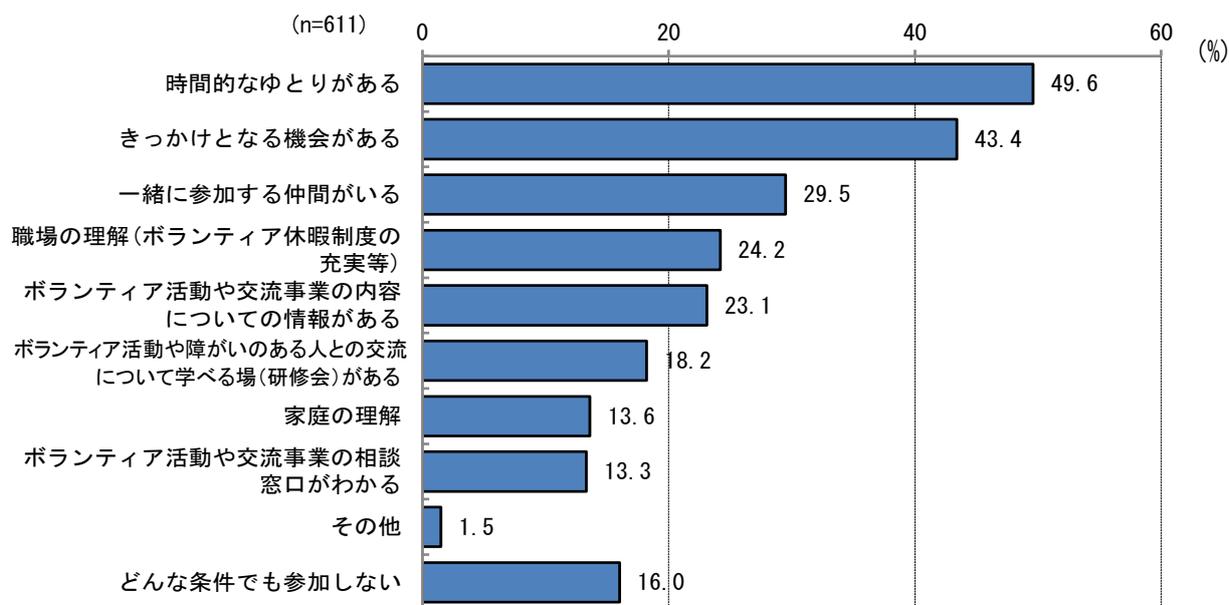
⑥国・県・市やボランティア、福祉事業所等が支援を行うべき



2-3 ボランティア活動・交流事業等への参加条件

問6 どのような条件がそろえばボランティア活動や障がいのある人との交流事業に、あなたは参加できそうですか。

ボランティア活動・交流事業等への参加条件は、「時間的なゆとりがある」が49.6%と最も高く、ついで「きっかけとなる機会がある」が43.4%、「一緒に参加する仲間がいる」が29.5%となっています。



年齢別で見ると、『20歳代』から『40歳代』は「職場の理解（ボランティア休暇制度の充実等）」が他の年齢よりも高くなっています。

【年齢別】

	調査数	時間的なゆとりがある	きっかけとなる機会がある	一緒に参加する仲間	職場の理解(ボランティア休暇制度の充実等)	交流事業の情報がある	ボランティア活動や障がいのある人との交流について学べる場(研修会)がある	家庭の理解	ボランティア活動や交流事業の相談窓口がわかる	その他	どんな条件でも参加しない
全体	611	49.6	43.4	29.5	24.2	23.1	18.2	13.6	13.3	1.5	16.0
20歳代	121	52.1	41.3	37.2	33.9	20.7	19.0	14.9	14.9	3.3	15.7
30歳代	123	56.9	52.0	37.4	24.4	28.5	17.9	20.3	17.9	0.0	17.1
40歳代	122	54.9	40.2	28.7	32.0	26.2	16.4	11.5	13.1	1.6	13.9
50歳代	122	48.4	43.4	18.0	18.9	18.0	19.7	7.4	9.0	0.8	18.0
60歳以上	123	35.8	39.8	26.0	12.2	22.0	17.9	13.8	11.4	1.6	15.4

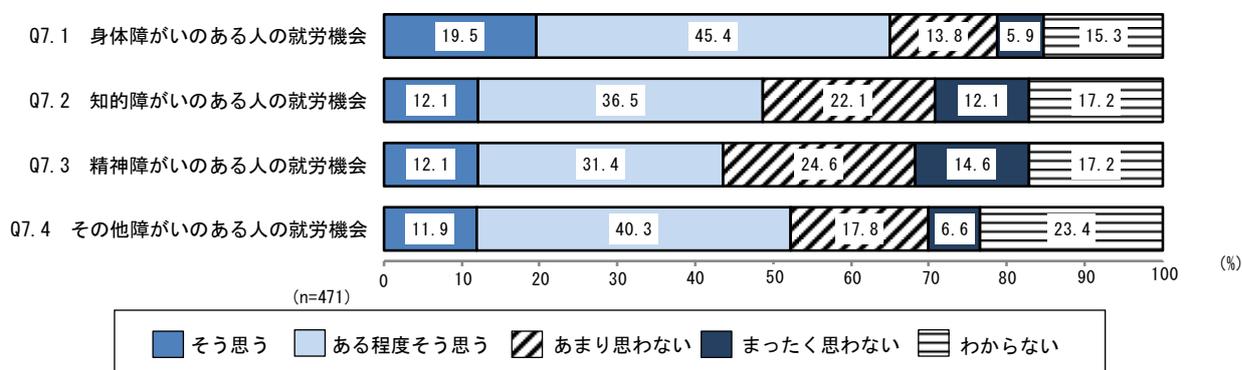
3 障がい者の就労

3-1 障がいのある人の就労機会

問7は、問3で「正社員」、「パート・アルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「自営業主・自由業」、「家族従業者・内職」を選択された方のみ回答

問7 あなたが働く職場で、障がいのある人の就労機会が増えるべきと思いますか。

障がいのある人の就労機会が増えるべきという考えに対して、肯定的な意見（「そう思う」「ある程度そう思う」）が最も高いのは、「身体障がいのある人の就労機会」であり、64.9%となっています。一方で、「知的障がいのある人の就労機会」、「精神障がいのある人の就労機会」の肯定的な意見は、4～5割となっています。



年齢別で見ても肯定的な意見（「そう思う」「ある程度そう思う」）は「身体障がいのある人の就労機会」が最も高く、「精神障がいのある人の就労機会」が最も低くなっており、年齢で大きな違いはありません。

【年齢別】

(%)

	Q7.1 身体障がいのある人の就労機会					Q7.2 知的障がいのある人の就労機会				
	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない
全体(n=471)	19.5	45.4	13.8	5.9	15.3	12.1	36.5	22.1	12.1	17.2
20歳代(n=99)	24.2	42.4	15.2	5.1	13.1	14.1	33.3	24.2	14.1	14.1
30歳代(n=101)	19.8	48.5	12.9	8.9	9.9	14.9	36.6	20.8	16.8	10.9
40歳代(n=97)	20.6	42.3	13.4	8.2	15.5	9.3	45.4	16.5	10.3	18.6
50歳代(n=102)	15.7	45.1	17.6	3.9	17.6	9.8	29.4	27.5	11.8	21.6
60歳代(n=72)	16.7	50.0	8.3	2.8	22.2	12.5	38.9	20.8	5.6	22.2
	Q7.3 精神障がいのある人の就労機会					Q7.4 その他障がいのある人の就労機会				
	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない
全体(n=471)	12.1	31.4	24.6	14.6	17.2	11.9	40.3	17.8	6.6	23.4
20歳代(n=99)	15.2	34.3	21.2	16.2	13.1	15.2	39.4	19.2	7.1	19.2
30歳代(n=101)	12.9	32.7	25.7	17.8	10.9	11.9	36.6	20.8	8.9	21.8
40歳代(n=97)	10.3	29.9	24.7	14.4	20.6	9.3	41.2	14.4	6.2	28.9
50歳代(n=102)	9.8	28.4	27.5	13.7	20.6	12.7	37.3	22.5	4.9	22.5
60歳代(n=72)	12.5	31.9	23.6	9.7	22.2	9.7	50.0	9.7	5.6	25.0

【就労形態別】

(%)

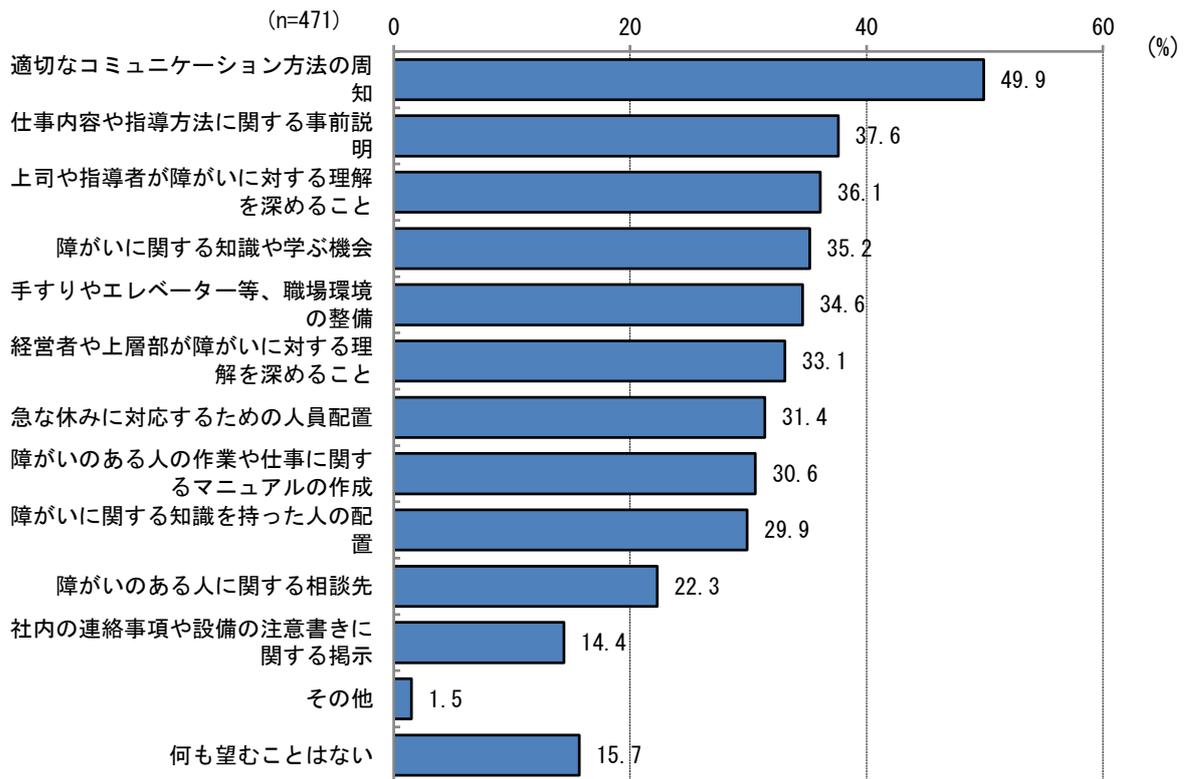
	Q7.1 身体障がいのある人の就労機会					Q7.2 知的障がいのある人の就労機会				
	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない
正社員(n=295)	21.0	45.8	15.3	5.8	12.2	13.6	36.6	22.7	12.2	14.9
パート・アルバイト(n=105)	13.3	49.5	14.3	3.8	19.0	6.7	42.9	18.1	11.4	21.0
契約社員・嘱託(n=29)	34.5	24.1	6.9	6.9	27.6	17.2	17.2	34.5	10.3	20.7
派遣社員(n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
自営業主・自由業(n=38)	10.5	47.4	7.9	13.2	21.1	7.9	34.2	21.1	13.2	23.7
家族従業者・内職(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	Q7.3 精神障がいのある人の就労機会					Q7.4 その他障がいのある人の就労機会				
	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない	そう思う	その程度	あまりない	まったくない	わからない
正社員(n=295)	12.9	31.5	26.4	14.9	14.2	13.2	38.6	19.7	6.8	21.7
パート・アルバイト(n=105)	8.6	35.2	21.0	13.3	21.9	6.7	47.6	15.2	4.8	25.7
契約社員・嘱託(n=29)	17.2	13.8	27.6	17.2	24.1	17.2	27.6	17.2	6.9	31.0
派遣社員(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自営業主・自由業(n=38)	10.5	28.9	21.1	15.8	23.7	5.3	44.7	13.2	10.5	26.3
家族従業者・内職(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

3-2 障がいのある人と働く際に企業・事業所に希望すること

問8は、問3で「正社員」、「パート・アルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「自営業主・自由業」、「家族従業者・内職」を選択された方のみ回答

問8 障がいのある人があなたと同じ職場で働くにあたり、あなたが企業・事業所に希望することは何ですか。

障がいのある人と働く際に企業・事業所に希望することは、「適切なコミュニケーション方法の周知」が49.9%と最も高く、ついで「仕事内容や指導方法に関する事前説明」が37.6%、「上司や指導者が障がいに対する理解を深めること」が36.1%となっています。



年齢別で見ると、『20歳代』と『30歳代』は項目全般に対する回答率が高く、障がいのある人と働くにあたって、企業・事業所に希望することが多くなっています。

【年齢別】

(%)

	調査数	適切なコミュニケーションの方法の周知	仕事内容や事前指導方法に関する	上司や指導者が障がいを深く理解していること	障がいに関する知識や学ぶ機会	職場環境の整備	手すりやエレベーター等	経営者や上層部が障がいに対する理解を深めること	急な休みに対応する体制
全体	471	49.9	37.6	36.1	35.2	34.6	33.1	31.4	
20歳代	99	47.5	40.4	35.4	44.4	35.4	33.3	32.3	
30歳代	101	52.5	43.6	44.6	45.5	40.6	40.6	39.6	
40歳代	97	49.5	39.2	30.9	26.8	32.0	29.9	32.0	
50歳代	102	48.0	31.4	33.3	28.4	27.5	28.4	24.5	
60歳以上	72	52.8	31.9	36.1	29.2	38.9	33.3	27.8	
	調査数	企業が仕事の作成の作業障がいの関係する配置知識	障がいに関する知識	障がいのある人に関する相談	社内注連絡事項や設備の意識	その他	何も望むことはない		
全体	471	30.6	29.9	22.3	14.4	1.5	15.7		
20歳代	99	30.3	32.3	25.3	12.1	1.0	13.1		
30歳代	101	33.7	35.6	34.7	22.8	1.0	16.8		
40歳代	97	27.8	25.8	18.6	9.3	1.0	14.4		
50歳代	102	28.4	28.4	15.7	13.7	3.9	21.6		
60歳以上	72	33.3	26.4	15.3	13.9	0.0	11.1		

就労形態別で見ると、『正社員』に比べて『パート・アルバイト』は「適切なコミュニケーション方法の周知」、「仕事の内容や指導方法に関する事前説明」、「上司や指導者が障がいに対する理解を深めること」、「障がいのある人の作業や仕事に関するマニュアルの作成」に対する回答率が高くなっています。

【就労形態別】

	調査数	適切なコミュニケーション方法の周知	仕事の内容や事前指導方法	上司や指導者が障がいを深く理解すること	障がいに関する知識や学びの機会	職場環境の整備	手すりやエレベーター等	経営者や上層部が障がいに対する理解を深めること	急な休みに対応するための人員配置
全体	471	49.9	37.6	36.1	35.2	34.6	33.1	31.4	
正社員	295	45.4	35.3	32.9	34.2	34.2	30.2	30.5	
パート・アルバイト	105	55.2	41.9	44.8	36.2	37.1	36.2	36.2	
契約社員・嘱託	29	69.0	51.7	44.8	48.3	44.8	55.2	31.0	
派遣社員	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
自営業主・自由業	38	57.9	36.8	28.9	31.6	23.7	34.2	26.3	
家族従業者・内職	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	調査数	二業障 ユやが ア仕い ル事 のにあ 作関 成す人 るの マ作	を障 持が つ いた 人関 のす 配る 置知 識	す障 るが 相 いの 先 ある 人 に 関	る備社 掲の内 示注の 意連 書絡 き事 に項 関や す設	そ の 他	何 も 望 む こ と は な い		
全体	471	30.6	29.9	22.3	14.4	1.5	15.7		
正社員	295	26.1	29.5	22.7	15.3	1.4	17.6		
パート・アルバイト	105	38.1	33.3	21.9	9.5	1.0	11.4		
契約社員・嘱託	29	44.8	27.6	27.6	31.0	0.0	13.8		
派遣社員	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0		
自営業主・自由業	38	36.8	26.3	18.4	10.5	2.6	15.8		
家族従業者・内職	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

4 まちづくり

4-1 障がいのある人に関する経験

問9 あなたが住む地域（市町村）で見かけた、印象に残っている障がいのある人への支援・配慮や、あなたが障がいのある人と交流したエピソードを教えてください。

■高砂市在住者の意見

【障がいのある人を手助けした経験】

内容	性別	年齢
・駅で目の不自由な人の案内をした。	男性	20 歳代
・横断歩道で白杖の人に声をかけた。	男性	50 歳代
・近くの鉄道沿線でもいつも鉄道好きの障がいのある方を見かけるが、周りの人は特に干渉もせず見守っている。	男性	40 歳代
・電車で通勤中に白杖のかたを見かけた。その時、手伝いましょうかと声をかけ、電車の乗り降りを手伝ったことがある。最初はどういう風に手助けしたらいいかわからなかったけれど、話をすることで、肩をもってもらって誘導することがわかった。	男性	50 歳代
・娘の同級生に耳が悪い子がいるが、一緒にいて当たり前になっている。 ・自動販売機の前で、電動車椅子の方がお金を入れるのに苦労されていて、お手伝いしたらとても感謝された。	女性	40 歳代
・スーパーにて、車椅子で一人で買い物をされていた方に上の方の商品を取ってと頼まれて取ったところとても丁寧にお礼を言って頂いたが、もっと早く気づいてこちらから声を掛ければよかったと思った。	女性	40 歳代
・駅で目の見えない人がいたので、声をかけたが、何が悪かったのか断られてしまった。接し方等、やはり色々分かってからでないとなかなか難しいような気がする。	女性	50 歳代
・突然話し掛けられて、どうしたらよいかわからずに焦ってしまい、その場を離れたことがあり後悔している。	女性	50 歳代
・白杖を持っている方には、積極的に案内等行うようにしており、車椅子を利用されている方には後ろから押してあげたりする。	女性	20 歳代

【自分が所属している団体・就労先で障がいのある人と接した経験】

内容	性別	年齢
・ボランティア団体に所属していて、年に数回、障がいのある方々や高齢者等と交流している。	男性	40 歳代
・パラスポーツを通じて色々な障がいの方がいらっしやるのがわかった。皆さん前向きで活動出来る環境が整って欲しいとおっしゃっていた。	男性	40 歳代
・現在、同じ職場の同僚に知的障がい者がいるが、障がいの程度がよく分からない。入社の際に上司からは複雑なことや同時に色々な事は理解しにくいかもしれないという説明しか無く、実際に一緒に働いてみると挨拶もしっかり出来、会話も問題なく気の利く普通の感じがする。確かに複雑な事や専門性の強いことは難しそうだが、今のところ問題は無さそうである。本人にあまり詳しく聞くのは失礼なのかと思い聞けない。	男性	40 歳代
・現在の職場で共に働いている方の中に4人身体的な障がいのある方が居られるが、最初は気に掛けながら対応しているが時間と共に普通な感じで接している。 ・性格によると思うが、一生懸命働く方も居られるが、甘える方の割合が多いと感じてしまうことが残念。	男性	60 歳代
・今までの職場に必ずと言っていいほど、障がい者はいました。障がい者の中にも色々な人がおり、積極的に仕事、コミュニケーションを取る人もいれば、そうでない人もいます。一括りにはできない。他の人と同じです。	男性	60 歳代
・以前の職場で、指が少ない身体障がいの方がいたが、普通に業務をこなしておられたので、今まで身体障がいのある人は大変だと思っていたが、人によってはそうではないということがわかった。	女性	20 歳代
・市のイベントに参加した際に障がいのある人が手作りしたものを売っているブースがあった。とても繊細な物が売られていたので正直驚いたので印象に残っているが、こういうイベント等でしか出会う機会はない。	女性	30 歳代
・バイト先のスーパーに、精神障がい者の方々が社会勉強を兼ねて、月に何回か買い物に来ており、意思疎通を図る事が難しい方から、軽い症状の方まで、何人も接客した。最初は壁を作り、ずっとうつむいていた方が、少しずつ買い物に慣れ、笑顔を見る事が多くなった時はとても嬉しかった。	女性	30 歳代
・先日、就業場所である小売店舗にて、松葉杖の女性のお客様が店内設置の車椅子に乗り換える際に転倒されて苦しんでいた時、全く見ず知らずの別のお客様方が店に知らせてくださったこと、その通報を受けて行なった援助がなかなかうまくいかず苦勞し、こういう経験の出来るきっかけがなかったことや、経験を積むことでやり方がだんだん分かってくるのだろうな、という思いに至ったこと。	女性	40 歳代

【学校で障がいのある人に接した経験】

内容	性別	年齢
・小学校の際、定期的に特別支援学級の生徒と昼食を取る機会が設けられた。小学生ながらに、障がい者への理解を深めることができた。	男性	20 歳代
・小学生の頃に小児麻痺の子の介助を同級生がしているのを見た。二人とも級友の時期があった。	男性	60 歳代
・小学生の頃に、障害者施設へ学習に行き、一緒に作業をしりました。	女性	20 歳代

【障がいのある人に関する設備や配慮】

内容	性別	年齢
・119番通報をする際、安心ボタン(ワンタッチでの通報)や緊急FAX(失語症・ろう者)での通報体制を整えている事。	男性	30歳代
・足に障がいのある関係で、ちょっとした段差を乗り越えることができない人のために、町内で有志達が寄付を出し合い道路のバリアフリー化を行った。	男性	50歳代
・地方の小さな鉄道駅だがエレベーターができた。	男性	50歳代
・点字パネル設置。点字ボタン等。	男性	30歳代
・幼い頃、地元ショッピングモールのフードコートには車椅子利用者用のテーブル席が無かった。車椅子を利用していた曾祖母が不便そうで意見箱に投書したところ、椅子が無く周囲のスペースにゆとりのある専用席が設置された。「車椅子の人も使いやすくしてほしい」といった簡潔な内容だったが、利用シーンを想像した上で改善してもらえた事に、幼心に嬉しく思ったのを覚えている。	女性	20歳代
・特に印象に残る事は無いが、初めてユニバーサルデザインの自動販売機を利用した時には、今まで何気無く押していたボタン位置や投入口等に、なるほどと納得した事を覚えている。	女性	40歳代
・私が住んでいる地域で特にそのような支援、配慮を感じた事はないが、スーパー等の入口に呼び出しボタンがあったり、貸出用の車椅子がある事は知っている。 ・視覚障がいの方と話す機会が以前にあったが、コミュニケーションをどう取って良いか難しかった記憶がある。何をしても偽善的にうつってしまうのではないかと不安はある。	女性	50歳代

【身内・知人の障がいのある人との関わり】

内容	性別	年齢
・次女が知的障がい者なので次女が幼い頃から障がい者に関わる機会が多く、関わることで理解を深めることが出来たと思う。ちなみに、以前は障がい者のことは大嫌いだった。	男性	40歳代
・自分の子供が障がい者なので、各企業の取組には関心があり、事業所のある地区の企同協には積極的に参加している。	男性	50歳代
・亡くなった妻が障がい者だった。彼女も言っていた、健常者の様には出来ない。でも、私からやろうとする努力を奪わないでと。色眼鏡で知らず知らずに接していた自分に気づいた。それから、健常者と同じ様に向かい合う事が出来る様になったと思う。ただ、知的障がい者は繊細過ぎて専門的知識のある介助員が必要。心を閉ざしたら、人間関係は、成立しない。	男性	50歳代
・自分の身内に車椅子生活の人がいるので、手助けするのは、自分は抵抗があまりないが、町で見かけたALSの方が車椅子で段差にはまって動けなくなっているのを助けに行ったら、一緒にいた人が物凄く引いていて、知らない人だし怖いから放っておけばよいのではないかと、というような事を言われ、悲しくなった。	女性	40歳代
・障がいのある方の学園に知人がおり、学園祭のお手伝いを毎年させていただいている。今年はコロナの影響で中止となったが、機会があれば参加しようと思っている。その中で生徒さんとの交流を行うことで自分の考え方も変化した。 ・普段は青少協や地域活動へのボランティア活動をおこなっており、そのメンバーに声をかけて次回の学園祭には一緒に参加する予定。	女性	40歳代
・息子が、透析患者であり、週3回通院中で障害者手帳もある。学校の教師をしているが、校長先生はじめ皆様方が理解して下さり、毎日元気に登校している。	女性	60歳代

【行政に対する意見】

内容	性別	年齢
・間接的に様々な障がい者への支援として税金が投入されているが、全ての障がい者が享受しているとは一概に言えない。逆に障がい者であることを理由に過度な要求や暴言を見かける機会の方が圧倒的に多い。これでは公共の福祉とは到底言えない。むしろ物言わぬ困窮者へ支援を拡大すべきである。	男性	50 歳代
・どの自治体であっても障がい者への支援に多くの税金を投入しており十分である。逆に障がい者であることを理由に「差別された」「邪魔をした」という不平不満、あるいは暴言等を見かける機会が圧倒的に多い。障がい者自身の意識や価値観の改革のほうが重要である。	女性	50 歳代

【その他】

内容	性別	年齢
・歩きスマホにより障がい者に接触、転倒等させないような呼びかけを見たことがある。歩きスマホ自体マナーが悪く、危ない事象であるにも関わらず、なくなる。モラルが悪い。	男性	40 歳代
・出身地の大阪では道を歩けば多種多様な人がいたと思う。現在、障がいのある人を見かける機会が大きく減ったように感じている。 ・車社会なので、移動も車が多いのかもしれない。駐車場も広い場所が多く、車椅子マークの駐車スペースが何台も確保されているのには驚いた。 ・例えば車椅子に乗っている方は、段差や上下運動の多い都会と比べて、田舎の方が道も広く人の流れも比較的穏やかで暮らしやすいのかもしれない。 ・田舎は車がないと不便と感じていたが、逆に言えば車さえあれば(介助してくれる人は必要かもしれないが)移動はスムーズであるし、人の目にふれることなく自由に行動できるように思い、自分の中のギャップを感じている。	女性	30 歳代
・点訳ボランティアをしているが、点字の指導に来ている目の不自由な方は、私たちが点字を学び、点訳をすることについて、しっかり精進しなさいという態度であり、そこに違和感を感じる。「してやってる」という感覚は無いが、自分の時間を提供しているのは事実である。もちろん、興味を持ったから、やらせていただいているのだが、障がい者であれ、健常者であれ、自分のために他者に時間を使わせるなら、それなりの対応が必要かと思う、何事もお互い様。日本のようにボランティアに頼っている現状ではなおさら、お互いに謙虚さがないと長続きしないのではないかと思う。	女性	50 歳代
・スーパーマーケットの駐車場で定期的に障がい者がゴミの回収作業をしている。	男性	30 歳代

■高砂市外在住者の意見

【肯定的経験】

内容	性別	年齢	居住地
・社会福祉協議会の広報誌を通じて障がいのある方の活動を拝見している。	男性	30 歳代	西宮市
・車椅子の方がバスに乗る際に、運転手の方が降りてきて、スロープを出していたのはあたりまえの事なのかもしれないが、とても親切に見えた。	女性	20 歳代	西宮市
・障がいがある方が、市の自立プログラムのような形で市の施設で清掃や接客をしているのを、サービスを利用して体感した。	男性	30 歳代	神戸市
・ヘルパーの仕事で全盲の方の同行を経験した。中途視覚障がい者であったが、何事にも前向きで、健常者と障がい者が一緒にするスポーツや、同じコーラスの会に参加され、こちらが学ぶ機会が多々あり、どちらにとってもプラスが多いと感じた。	女性	50 歳代	神戸市
・市役所で、障がい者施設で作ったお菓子の販売をしており、非常に美味しいのでよく購入する。	女性	20 歳代	三田市
・学校での就学支援を知っている。障がいに応じて支援内容が異なるようであるが、学びたい意欲の高い障がい者を支援することは目的がわかりやすく、ボランティアなり活動に参加することが分かりやすくて入りやすいと感じた。	女性	40 歳代	三田市
・地域の障がい者の作業所で体操を友人がボランティアで指導していたので、参加していた経験から障がいに対しての理解が少し深くなったと思う、機会があれば、積極的に参加することが大切だと思った。	女性	60 歳代	三田市
・交流した事はない。伊丹市は障がい者支援に力を入れているようで、毎朝通勤時に施設からの車を待っている障がい者と付き添いの方を目にする。デイケアのようなものだと思うが、日々大変な中助かるだろうと想像する。	女性	60 歳代	伊丹市
・職場では知的障がいがある人を積極的に雇用しようとする働きかけがあり、実際雇用している。	女性	50 歳代	尼崎市
・同じマンションに障がい者施設の寮があり、障がいを持たれた方が住んでいる。子供を連れていないと必ずにこやかに声をかけてくれて、子供も喜んでいる。	女性	20 歳代	洲本市

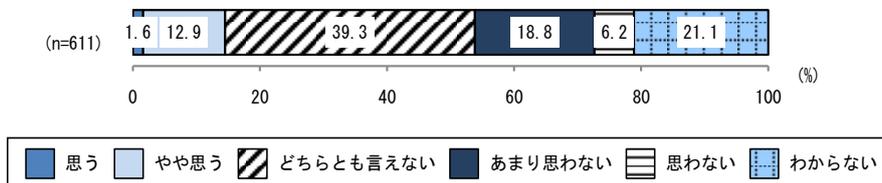
【課題と感じた経験】

内容	性別	年齢	居住地
・中学の職業体験で、障がい者支援施設があったが、参加者は自分1人だった。	女性	20 歳代	神戸市
・会社と一緒に働いている方は耳の障がいがあり、仕事等で理解したと思ったが、まったく通じてない事が多々あった。	女性	50 歳代	神戸市
・特にないが変形土地や、階段がある家に住んでいる人の車椅子等の車からの移動が大変そうなので、人力ではなくもっと電動で動かせるものがあると便利だと感じた。	女性	50 歳代	神戸市
・小学校に特別支援学級があったが、やはり、暴れたり暴力的な子もいたので、関わりたくなかった。	男性	30 歳代	尼崎市
・他の事業所で障がい者雇用を行っているため、障がい者についての話をよく聞いていた。障がい者団体の力で雇用が左右すると思うので自治体等に入り込む必要がある。民間企業に就職するには身体障がい者又は鬱病から立ち直った人でないと通用しないと思う。	男性	30 歳代	尼崎市
・介護で車椅子を押したことがあるが少しの段差でもこつをつかまないと上げることが出来なかった。もっとバリアフリー化するべきだ。	女性	40 歳代	赤穂市
・交流をした事はなく、お店で障がいのある方が来られた時、お店に入る時、自動ドアではなかったの、扉を開けるのに困難であったり、身体の不自由な方達にはまだまだ利用しづらい施設が多いのだろうと思った。その時は扉を開閉してあげた。	女性	40 歳代	赤穂市
・私の父は精神障がい者だったが、働くところもなく、生活保護を受給するのも躊躇い極貧生活を送り、周りの目も気にしながら生きてきた。行政も、企業も何もしてくれない、形だけの、このアンケートも、お金の無駄だと思う。	男性	20 歳代	加古川市
・電車で通勤していると、駅やバスの中で障がいのある方を見かけるが、支援を要する場面に出会わないのでそのまま通りすぎてしまう。 ・明らかに精神障がい者だと思われる人をバスでよく見かけるが、大声での独り言、泣く、笑う、正直迷惑を感じる。誰か付き添いの人がいるだけでも受ける感じが大きく違うと思う。 ・肉体的な障がい者と精神的な障がい者を同じくくりで考えるのはどうかといつも思う。	女性	60 歳代	西宮市
・私が住む地域は、障害福祉の学校が多々あるが、おとなしい人はよいが、急に大声を出して走り回る人を見かけると少し怖さも感じる。	女性	60 歳代	神戸市
・知的障がいであろう方を見かけると怖くて離れてしまう。一度近寄ってこられた時に大声をあげられた事があってから自分から歩みよることはできない。	女性	30 歳代	多可町

4-2 障がいのある人の暮らしやすさ

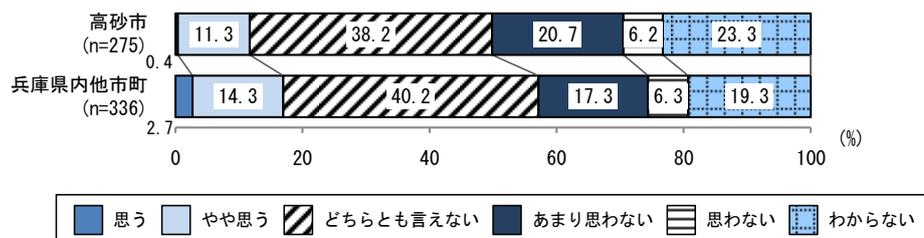
問 10 あなたがお住まいの市町村は、障がいのある人にとって暮らしやすいと思いますか。

障がいのある人の暮らしやすさは、「どちらとも言えない」が39.3%と最も高く、ついで「わからない」が21.1%、「あまり思わない」が18.8%となっています。



居住地別で見ると、『高砂市』は『兵庫県内他市町』に比べると、肯定的な意見（「思う」「やや思う」）が低くなっています。

【居住地別】



高砂市障害者計画・第6期高砂市障害福祉計画兼
第2期障害児福祉計画策定に向けたアンケート
調査結果報告書
【健全者へのアンケート】

令和2年10月 発行

発行／高砂市
編集／高砂市 福祉部 地域福祉室 障がい・地域福祉課
〒676-8501 兵庫県高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号
TEL : 079-443-9027 FAX : 079-443-3144